



2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年2月9日

上場会社名 株式会社エスライングループ本社 上場取引所 東 名
コード番号 9078 URL <https://sline.co.jp/>
代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 山口 嘉彦
問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 白木 武 TEL 058-245-3131
四半期報告書提出予定日 2024年2月13日 配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無：無
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	37,462	2.9	604	△26.1	700	△26.4	443	△30.0
2023年3月期第3四半期	36,405	△0.5	817	△26.7	952	△21.6	633	△23.0

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 609百万円 (14.5%) 2023年3月期第3四半期 531百万円 (△30.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	40.88	—
2023年3月期第3四半期	58.40	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	42,127	27,117	64.4
2023年3月期	42,075	26,743	63.6

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 27,117百万円 2023年3月期 26,743百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	8.00	—	14.00	22.00
2024年3月期	—	8.00	—		
2024年3月期（予想）				14.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	49,000	1.9	900	8.3	1,050	1.1	650	△55.1	59.92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有
(注) 詳細は、添付資料 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期3Q	11,095,203株	2023年3月期	11,095,203株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	243,981株	2023年3月期	248,981株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期3Q	10,848,721株	2023年3月期3Q	10,846,075株

※期末自己株式数には取締役に対する業績連動型株式報酬制度「株式給付信託（BBT）」および当社の一部のグループ会社社員対象の株式給付制度「株式給付信託（J-E S O P）」のために設定した株式会社日本カストディ銀行（信託E口）が保有する当社株式（2024年3月期3Q 125,500株、2023年3月期 130,500株）が含まれております。また、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

（2024年3月期3Q 128,001株、2023年3月期3Q 130,689株）

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。詳細は、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結結果計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこと等もあり、景気は緩やかに回復しているものの、長期化するロシア・ウクライナ問題に加え、中東情勢が緊迫化する等、不安定な状況が続くなかで、世界的な金融引き締めによる円安の進行や資源価格の高騰に伴う物価上昇も続いており、依然として景気の先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループの主要な事業であります物流関連業界におきましては、経済活動やインバウンド需要の回復により、貨物輸送量は増加するものと期待しておりましたが、あらゆる商品価格の値上がりが続くことで、消費活動に力強さが感じられず、低調に推移しました。また、長引く原油価格の高騰により軽油単価や光熱費等の高値が続いていることや、ドライバー不足や2024年問題への対応等、労働環境の改善課題も多く、当社グループを取り巻く経営環境は非常に厳しい状況が続いております。

このような厳しい環境のもと、当社グループは、2年目となります中期経営計画（テーマ：「ありがとう創造計画」）の経営目標達成と企業価値の向上に向けて、グループ一丸となって取り組んでまいりました。基本方針のひとつであります「推進体制、基盤の確立」に関しては、昨年7月にホールディングス機能の見直しと強化を図る目的で商号を「株式会社エスライングループ本社」に変更しました。また、同じく基本方針のひとつであります「規模の拡大」に関しては、昨年10月に、関東エリアで家電製品の配送や設置工事業務を行っております㈱エムアンドエスコポーレーションを完全子会社化いたしました。

この結果、当第3四半期連結結果計期間の業績は、営業収益374億62百万円（前年同期比2.9%増）、営業利益6億4百万円（前年同期比26.1%減）、経常利益7億円（前年同期比26.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益4億43百万円（前年同期比30.0%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

[物流関連事業]

物流関連事業の主な事業収益は、貨物自動車運送事業、倉庫業、自動車整備事業、情報処理サービス業、損害保険代理業等があります。主なサービス部門として「輸送サービス」「物流サービス」「ホームサービス」があります。

トラックによる企業間輸送を主とする輸送サービス部門では、当第3四半期連結会計期間におきましても、消費活動は戻らず、第2四半期連結結果計期間までの厳しい状況が続いております。さらには、暖冬の影響により、冬物の衣料品の荷動きも鈍く、特積み貨物の輸送量は依然として低調に推移しております。一方、従来の特積み貨物以外の輸送領域として、港湾地区での輸入貨物を取り扱う㈱エスラインギフ「阪神港湾センター」や「京浜港湾センター」、さらには中部地区の地域貸切を取り扱う㈱エスラインギフ「中部貸切業務センター」を中心に貸切業務の拡大に取り組んでまいりました。その結果、貸切貨物の輸送量は増加しましたが、特積み貨物の輸送量の減少を補うまでには至りませんでした。このように貨物輸送量が伸び悩むなかで、人件費や燃料費をはじめとする固定的な輸送原価の上昇分を補うために、燃料サーチャージの收受や運賃値上げ交渉等の営業活動に継続して取り組んでまいりましたが、輸送サービス部門全体では減収となりました。

商品保管や物流加工を行う物流サービス部門では、過年度に新築した自社保管施設や賃借施設等による増床効果に加え、食品関連（主に菓子類メーカー）の取引先からの商品保管および配送業務の取扱物量が増加したことにより、物流サービス部門は増収となりました。

家電配送・設置業務や大型貨物の個人宅配を行うホームサービス部門では、家電の販売不振が続いているなかで、新規の取引先の開拓や、一昨年9月には東北地区、昨年10月には関東地区をカバーする家電配送および設置工事業務を行う会社を完全子会社化し、配送エリアの拡充に取り組んだ結果、増収となりました。

また、引越しサービスにおきましては、㈱エスラインギフ「引越事業センター」を強化し、オフィス引越しを積極的に取り組んだことにより、ホームサービス部門全体では増収となりました。

経費面では、軽油価格の高値が続いていることや、労働力不足による備車費を中心とした外注費の増加、社員の待遇改善や、求人費・社員教育費等の人件費の増加、さらには、新施設の減価償却費や施設使用料等の経費も増加するなかで、生産性の向上や作業効率の改善に努めるとともに、あらゆる経費の削減に取り組んでまいりました。

この結果、物流関連事業の営業収益は368億72百万円（前年同期比2.9%増）、セグメント利益は8億94百万円（前年同期比16.9%減）となりました。

[不動産関連事業]

不動産関連事業におきましては、当社グループ各社にて保有している不動産の有効活用を図るために、外部への賃貸事業を営んでまいりました。

この結果、不動産関連事業の営業収益は3億36百万円（前年同期比0.0%増）、セグメント利益は1億95百万円（前年同期比1.1%増）となりました。

[その他]

主に、旅客自動車運送事業および売電事業を営んでおります。旅客自動車運送事業におきましては、クラブ・サークル活動等の遠征や冠婚葬祭時の送迎業務が、行動制限の緩和等により一部回復したことで、増収となりましたが、人件費や燃料費、減価償却費等の諸経費も増加しました。

また、売電事業におきましては、㈱エスラインギフの名古屋第1・第2センター、豊橋支店、豊田支店、豊田センターおよび㈱スリーエス物流の本社第1センターの計6か所で発電を行っております。（総発電量1,333.96kW）

この結果、その他事業の営業収益は2億53百万円（前年同期比4.0%増）、セグメント利益は32百万円（前年同期比5.3%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

財政状態につきましては、当第3四半期連結会計期間末の連結資産合計は421億27百万円となり、前連結会計年度末比52百万円増加しております。この主な要因は、受取手形及び営業未収入金の増加、無形固定資産の増加、投資有価証券の増加と現金及び預金の減少によるものであります。

また、連結負債合計は150億10百万円となり、前連結会計年度末比3億21百万円減少しております。この主な要因は、借入金の返済と支払手形及び営業未払金の増加によるものであります。

連結純資産合計は271億17百万円となり、前連結会計年度末比3億73百万円増加しております。この主な要因は、利益剰余金の増加とその他有価証券評価差額金の増加によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2023年11月6日の「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、実際の業績につきましては、今後の様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,677	3,637
受取手形及び営業未収入金	5,725	6,245
貯蔵品	147	156
その他	473	690
貸倒引当金	△8	△9
流動資産合計	11,015	10,720
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	13,322	12,736
機械装置及び運搬具（純額）	2,424	2,315
土地	11,846	11,937
リース資産（純額）	65	76
建設仮勘定	—	120
その他（純額）	206	181
有形固定資産合計	27,865	27,368
無形固定資産	627	1,090
投資その他の資産		
投資有価証券	1,432	1,780
退職給付に係る資産	205	241
繰延税金資産	148	148
その他	833	831
貸倒引当金	△53	△53
投資その他の資産合計	2,566	2,947
固定資産合計	31,059	31,406
資産合計	42,075	42,127

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	5,008	5,402
短期借入金	430	250
1年内償還予定の社債	10	10
1年内返済予定の長期借入金	965	824
未払法人税等	348	107
賞与引当金	464	188
役員賞与引当金	31	46
設備関係支払手形	—	2
その他	1,166	1,570
流動負債合計	8,424	8,403
固定負債		
社債	75	65
長期借入金	795	401
繰延税金負債	2,618	2,678
役員退職慰労引当金	63	64
株式給付引当金	61	75
役員株式給付引当金	35	52
退職給付に係る負債	2,347	2,334
資産除去債務	634	637
その他	273	296
固定負債合計	6,906	6,606
負債合計	15,331	15,010
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,237	2,237
資本剰余金	2,959	2,959
利益剰余金	21,223	21,425
自己株式	△250	△244
株主資本合計	26,170	26,378
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	391	562
退職給付に係る調整累計額	182	176
その他の包括利益累計額合計	573	739
純資産合計	26,743	27,117
負債純資産合計	42,075	42,127

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第3四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2023年4月1日 至 2023年12月31日）
営業収益	36,405	37,462
営業原価	34,161	35,372
営業総利益	2,244	2,090
販売費及び一般管理費	1,426	1,486
営業利益	817	604
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	30	33
受取賃貸料	23	20
助成金収入	59	32
持分法による投資利益	6	3
その他	30	21
営業外収益合計	151	110
営業外費用		
支払利息	8	6
債権売却損	7	7
その他	1	0
営業外費用合計	16	13
経常利益	952	700
特別利益		
固定資産売却益	47	44
受取補償金	8	—
特別利益合計	56	44
特別損失		
固定資産除売却損	0	2
特別損失合計	0	2
税金等調整前四半期純利益	1,008	743
法人税等	375	299
四半期純利益	633	443
親会社株主に帰属する四半期純利益	633	443

（四半期連結包括利益計算書）

（第3四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2023年4月1日 至 2023年12月31日）
四半期純利益	633	443
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	31	171
繰延ヘッジ損益	△121	—
退職給付に係る調整額	△12	△5
その他の包括利益合計	△101	165
四半期包括利益	531	609
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	531	609

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

（追加情報）

前連結会計年度の有価証券報告書の「追加情報」に記載した「新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り」について重要な変更はありません。

（セグメント情報）

前第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

報告セグメントごとの営業収益及び利益の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	物流関連 事業	不動産関連 事業	計				
営業収益							
外部顧客への営業収益	35,825	336	36,162	243	36,405	—	36,405
セグメント間の内部営業収益又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	35,825	336	36,162	243	36,405	—	36,405
セグメント利益	1,077	193	1,271	34	1,305	△487	817

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、旅客自動車運送事業、売電事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△487百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社および㈱エスラインギフの総務部門等管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年12月31日）

報告セグメントごとの営業収益及び利益の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	物流関連 事業	不動産関連 事業	計				
営業収益							
外部顧客への営業収益	36,872	336	37,209	253	37,462	—	37,462
セグメント間の内部営業収益又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	36,872	336	37,209	253	37,462	—	37,462
セグメント利益	894	195	1,090	32	1,123	△519	604

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、旅客自動車運送事業、売電事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△519百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社および㈱エスラインギフの総務部門等管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。